

幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 九 月

雜 草

夏休みが済んで集つて来る子ぎも達のために、せめてもの用意は庭の雜草だ。キレイに刈りさろうとする庭師の言を斤けて、茂るがまゝに茂らせて置いた此の雜草だ。

刈るのは何んでもない。それをわざと刈らずに置いた心づかひが、折角く久し振りで會ふ君達への御馳走の積りを。

さあ〜遠慮なく踏んで馳け廻り給へ。實がなつてたら摘み給へ。葦もちぎつておもちやにし給へ。御馳走々々さいふが、もてなして、大きなおちさんから貰つたんだからね。君達も勝手にしていふだよ。君達が喜んで呉れさへすれば、雜草だつて本望だし、それを下さつた大きなおちさんも御満足さいふ譯さ。

たゞ、先生が拵へたものでないから、少々粗いよ。堅くつて君達の自由にならないかも知れないよ。觸はるゝ痛い刺くらあるかも知れないよ、葉だつて、花だつて、花壇の、よゝに美しくもないしね。だけれども、いふだろう。好きだろう。嬉しいだろう。——隅々を掃除して、これだけ残すには却つて骨が折れたんだからね、皆に大に喜んで貰はなくちあ。

なあに、バッタがゐるたつて。ハ、、、。それも雜草のおかげだよ。いゝお景物だね。さし〜追つかけてつかまへ給へ。